凡例

一、論文者名等の人名に関しては、すべて敬称を省いた。参考文献は五十音順に並べた。
一、本文中の論文者名は、各章ごとに最初だけ氏名を記述し、あとは姓のみを記した。
一、本文中の資料名に関しては、初出のみ角書を入れ、それ以降は角書等をはずした名称を用いた。
　但し、引用部に関してはその限りではない。
一、原本や他者の論文からの引用、また採取した用例は元のままの字体、仮名遣いを用いた。
一、シフトJIS（Shift_JIS）未掲載の漢字や仮名に関しては、作字を行い表記した。
一、用例に関しては、可能な限り原本から採取した。原本からの採取できなかった場合は、底本での確認を行った。
一、同一人物により同年に刊行された論文に関しては、区別を図るため「a」「b」等のローマ字を付した。
一、索引は、人名、資料名、事項に分け、それぞれ五十音順に配列した。

序章　式亭三馬の蔵書研究

一　三馬の言語描写に関する研究

本書は式亭三馬の蔵書（三馬の蔵書印が押された書、以降本書では「三馬蔵書印書」とする）を手掛かりに、三馬の言語描写に関し考察を行うものである。

式亭三馬の著作は江戸語の一級資料として、語彙や文法、待遇表現などを研究するうえで様々に利用されている。これらの三馬の著作には、白圏やサ行に付される半濁音符等の特殊表記や、片言や唐話、センボウ等の特殊語彙が用いられ、三馬が著作の中で工夫を凝らし、精緻な言語描写を目指していたことが窺われる。しかし三馬が特殊表記や特殊語彙をどのように学び著作に活かしたのか、という点に関する実証的な研究はほとんど進められていない。

書肆であった三馬は様々な書に精通し、自身の蔵書も多かったと考えられる。したがって、その中には三馬の言語描写に影響を及ぼした書も数多くあったことが予想できる。しかし、現在のところ三馬の蔵書目録は発見されておらず、三馬がどのような書を手にしていたかは著作中に見る書名からわずかに推測できるというのが現状である。

二　三馬蔵書印書調査の経緯

三馬蔵書印書を初めて手にしたのは、次のような経緯からである。著者は式亭三馬の片言描写に興味を持ち、拙稿（二〇一二　本書第一部第一章）の中で『道外節用小野篁譴字尽』（文化三〈一八〇六〉年）に収載されている「かまど詞大概」の語彙と他の片言資料との比較を行った。この調査を進める中で、国立国会図書館所蔵の三馬蔵書印書『まことぐさ』（『当世利口誠草』元禄五年〈一六九二〉年）に出会った。『まことぐさ』は安原貞室著『かたこと』（慶安三〈一六五〇〉年）の抄出本とされる書である。そこで拙稿（二〇一三　本書第一部第三章）では、『かたこと』と『まことぐさ』の

内容比較と、これに加え『小野篁謚字尽』に収録されている片言語彙資料「かまど詞大概」の語彙と『まことぐさ』の片言語彙を比較し、結果として『まことぐさ』が「かまど詞大概」の片言語彙に影響を及ぼしている可能性を述べた。

本論考で三馬の片言描写に『まことぐさ』の影響があることを論じたのを機に、著者は三馬蔵書印書の調査から三馬の蔵書を見つけ出すことを思いつき、科学研究費助成事業「式亭三馬の言語描写に見る三馬蔵書の影響」（挑戦的萌芽研究　平成二十五年四月―二十八年三月）、「式亭三馬の蔵書研究―三馬の言語描写との関係から」（基盤（C）　平成二十九年四月―令和二年年三月）を得て、三馬蔵書印書の調査を進めていった。

三　三馬蔵書印書調査の意義

三馬の片言描写には、『まことぐさ』以外の片言資料からの影響も考えられる。先にあげた拙稿（二〇一二）では、『かたこと』補遺とされる『浮世鏡』巻第三（貞享三〈一六八六〉年）の序文と三馬の『狂言田舎操』（文化八〈一八一一〉年）、『癖所謂癖物語四十八癖』（文化一四〈一八一七〉年）の記述の類似点を挙げ、その影響の可能性を示した。三馬蔵書印書の調査により、三馬が『浮世鏡』あるいはその抄出とされる「諸人片言なをし」が収録された書を所蔵していたこと、さらには実際にこれらの書に収録された語の使用を確認することができれば、片言資料が三馬の著作に影響を与えた可能性を高められよう。また、片言以外にも三馬が唐話やセンボウ等に関わる書を所蔵していたことがわかれば、それを糸口に三馬の特殊表記や特殊語彙が著作へ利用されていった過程を明らかにできると考える。

ところで三馬の蔵書に関しては、三馬自筆の『雑記』[1]（大東急記念文庫所蔵　以下本書では『式亭雑記』とする）の中に、

ニウ　これまて雑記せし／冊子のありけるか／文化三年寅の春／三月、四日芝高輪牛町／より出火のをりから日／

本橋十九文横町の／寓舎も類焼して／年来の蔵書あまた／烏有となりぬ

と記されていることで、三馬が文化三（一八〇六）年の火事で多くの蔵書を焼失していることが知られている。従って現在残されている三馬蔵書印書はおそらく三馬の蔵書の一部に過ぎず、三馬の蔵書の全貌を知ることはできないだろう。しかし、前述したように、現在のところ三馬の蔵書目録が発見されていないため、三馬の蔵書を調査するすべは三馬蔵書印書の調査のほかはない。そこで、三馬蔵書印書の洗い出しにより三馬蔵書の実態を探ること、そしてその中で、三馬の言語描写に影響を与えた書を抽出しその影響について検討することを目的に、三馬蔵書印書の調査を進めることにした。

四　三馬蔵書印書の調査

現在三馬蔵書印書は、国公立の図書館や大学図書館、また私設の文庫等様々な機関に分散されており、これらを丹念に調査していく必要がある。

四―一　国立国会図書館における三馬蔵書印書の調査

まず「式亭三馬の言語描写に見る三馬蔵書の影響」（挑戦的萌芽研究）では、国立国会図書館所蔵の三馬蔵書印書の調査を行った。先にあげた『まことぐさ』は、古典文庫（未刊文藝資料　第一期4　昭和二六年）に活字化されており（活字の書名は『まこと草』）、その後書きに、朝倉治彦[2]が「三馬の手沢本は、上野図書館に於て我々は百点近く捜し出した（六九頁）」と記していたからである。この記述を手掛かりに次のように調査を行った。

二〇一二年三月二九日より、国文学研究資料館では蔵書印データベースが一般公開されるようになった。そこでこ

の蔵書印データベースから三馬の蔵書印を調べ、「式亭」印二種、「三馬」印二種、「式三馬」印、「洒落斎」印、「本町庵弐馬記」印、「馬家書」印の蔵書印の種類を確認した。この他、三馬の蔵書印に関しては『新編蔵書印譜』（日本書誌学大系七九　二〇〇一）、『蔵書印提要』（日本書誌学体系四四　一九八五）、『人と蔵書と蔵書印』（国立国会図書館編　二〇〇二）等で確認を行い、「式亭三馬之印」印をこれに加えた。

これらの三馬の蔵書印を手掛かりに、国立国会図書館の蔵書検索システムを利用し調査を進めた。国立国会図書館では蔵書印データベースは作られていないが、「注記」に蔵書印のデータが記されているので、詳細検索にキーワードを入れることにより、三馬蔵書印書を見つけ出すことができる。この操作により、九八冊の三馬蔵書印書を採取することができた。これは、ほぼ朝倉の記述に等しい数値といえる。

四―二　国会図書館所蔵三馬蔵書印書の種類

国立国会図書館所蔵の三馬蔵書印書は後掲の「三馬蔵書印書目録」（四一七―四四三頁）に示す。**表**は、ジャンル別の三馬蔵書印書の数を調査したものである（一七頁参照）。表中の「ジャンル」は原則として国立国会図書館の分類に従った。[3] 先にあげた『まことぐさ』は語学のジャンルにあたる。

ジャンル別に国立国会図書館所蔵の三馬蔵書印書を見ると、黄表紙が五七冊と最も多く、他は一桁の数にとどまる。所蔵印に関しては「式亭」印が最も多い。国立国会図書館の調査では、二種類の「式亭」印が見つかった。いずれも丸印で、直径一・四センチ（以降「式亭中印」とする）、直径一・一センチ（以降「式亭小印」とする）であり、式亭中印は全体で三八冊、式亭小印は四二冊に押されている（式亭中印と式亭小印の混合は見られない）。式亭小印が押されているジャンル別の内訳は、黄表紙三二冊、青本四冊、黒本一冊、実録一冊、歌学一冊、歌謡一冊、浮世草子一冊、絵

表　国立国会図書館所蔵三馬蔵書印書（ジャンル別）

ジャンル	印記	数値	ジャンル	印記	数値
黄表紙　57	式亭小印	30	黒本　2	式亭小印	1
	式亭中印	8		式亭中印	1
	式三馬印	16	咄本　2	式亭中印	2
	式亭小印・式三馬印	2	赤本　1	式亭中印・洒落斎印	1
	三馬俵印	1	浮世草子　1	式亭小印・三馬俵印・洒落斎印	1
浄瑠璃本　7	式亭中印	1	絵本番附　1	式亭中印・三馬俵印	1
	式亭中印・三馬俵印	2	絵画・風俗　1	式亭小印	1
	式亭中印・三馬角印	3	歌学　1	式亭小印	1
	式亭中印・洒落斎印	1	漢学　1	式亭中印・三馬俵印	1
評判記　4	式亭中印	2	記録　1	式亭中印・三馬俵印	1
	式亭中印・三馬俵印	2	合巻　1	式亭中印	1
青本　4	式亭小印	4	語学　1	式亭中印	1
歌謡　3	式亭小印	1	実録　1	式亭小印	1
	式亭中印	1	説話　1	式亭中印・三馬俵印	1
	式亭中印・三馬俵印	1	能　1	式亭中印	1
洒落本　3	式亭中印	2	仏教　1	式亭中印・三馬俵印	1
	式亭中印・三馬俵印	1	室町物語　1	式亭中印	1
歌舞伎　2	式亭中印	1			
	式亭中印・三馬俵印	1			
計					98

画・風俗一冊である。一方式亭中印は黄表紙八冊、浄瑠璃本七冊、評判記四冊、洒落本三冊、歌謡二冊、歌舞伎二冊、咄本二冊、黒本一冊、赤本一冊、仏教一冊、室町物語一冊、語学一冊、能一冊、記録一冊、漢学一冊、合巻一冊、絵本番附一冊、説話一冊であり、式亭小印に比べジャンルにバラエティーが見られる。

「式三馬」印（角型　縦一・四×横一・四センチ　以降「式三馬印」とする）は一八冊に押されており、すべて黄表紙である。他に「三馬」印（俵型　縦二・一×横一・〇センチ　以降「三馬俵印」とする）一二冊、「洒落斎」印（長角型縦三・六×横一・八　以降